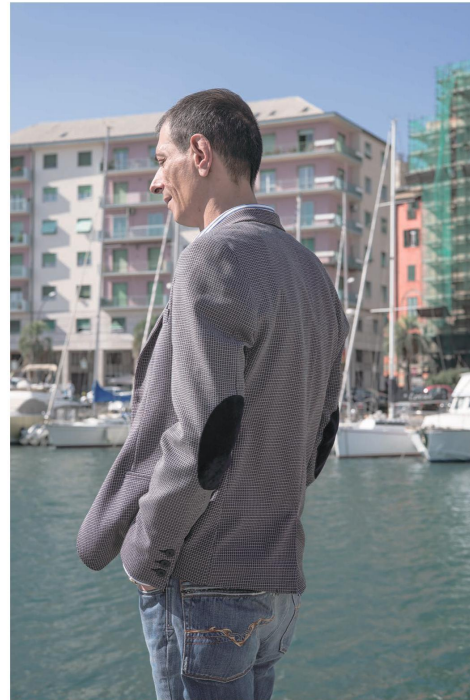




イタリア地図に赤色で記された地域は性的虐待が報告された場所を示すが、氷山の一角でしかない



フランチェスコ(上)は子供時代(左)にリグーリア州スポトルノ村の教会(右ページ)で初めて聖職者から性的虐待を受け、その後数年間被害を受け続けた。彼は今、聖職者から虐待を受けた被害者の権利保護を求める活動を行っている

聖職者の約50人に1人が小児性愛者だ。ローマ法王(教皇)は14年、驚きの事実を明らかにし、カトリック教会で同性的虐待を認めた。国連も同年子供に対する組織的なレイプが行われていたにもかかわらず、過ちを犯した聖職者が罪に問われていないことを非難した。

2004年以降、聖職者や教会関係者による子供に対する性的虐待の数は3500件以上に上る。関与した聖職者にはその後、生涯を懸けての償いといった懲罰が科されたが、彼らの多くは高齢で、認知機能が低下していることもしばしばだ。

ローマ法王の影響が社会の隅々にまで及ぶイタリアでは、何百という性的虐待が報告されている。ただ、事件の多くは隠蔽され、被害者の多くは家族や友人の目を恐れて声を上げることができない。彼らは苦しい沈黙に閉じ籠もることで身を守り、その思いを決して明かそうとはしない。心の傷を抱えて生きることを強いられる一方、過去を忘れることもできない。

そんななか、素顔を明かして過去を語る被害者を収めたトマゾ・クラブリーノの作品「われ告白す」は、彼らの記憶と心の傷を探る貴重な記録だ。



CONFITEOR (I CONFESS)

「性的虐待」イタリアの告白

PHOTOGRAPHS BY TOMASO CLAVARINO

Picture Power

PRIMA DELL'ABUSO ERO UN RAGAZZINO STENSIERATO, FELICE, AVEVO LA MIA FAMIGLIA E DESIDERAVO CONOSCERE LE COSE. MI SONO TRASFORMATO IN UN ADOLESCENTE NERVOSO, BATTUTO E ALIENATO CHE HA PRONTO UN MANIACO INTOSCATO, NICHILISTA E PIENO DI RIFERIMENTI FINO ALLA PERDA DI COSCENZA DELL'EVENTO, OGNI TRONTOCAME.

DA QUEL MOMENTO HO DOVUTO RECUPERARE IL RAPPORTO CON LA MIA FAMIGLIA, L'AMORE PER LA CONOSCENZA, LA FIDUCIA NELLE PERSONE ED IL RISPETTO PER LA VITA ATTRAVERSO LA TERAPIA PSICOLOGICA E L'ATTENZIONE.

MI RITROVO CON EMOTI COPERTI A LIBRO ESISTENZIALE, SPIRITUALE E SOCIALE. CORRE I TRAGICI E CERCO TENTAZIONI NON SI CAVEILANO CON UN COLORE DI SPUGNA, RESTANO NELLA TEMENTE E NEL CUORE TIRANDO OGNI MORGENTO. COMPLICANO LA SENSIBILITÀ, RINUCENDO LE ATTIVITÀ PER IL FUTURO. L'ABUSO PUÒ INQUINARE LA MENTE A TAL PUNTO DA RENDERE LA BELLETTÀ IMPOSSIBILE

Milco



ミルコ(上)が性的虐待を受けていた頃(下)。よく笑い、家族を愛するどこにでもいる少年だった



7人兄弟・姉妹の家族(上)のうち、マルタ(右写真左)ともう1人が同じ聖職者からの性的虐待を受けたと、両親は語る



シチリア島の教会で被害を受けたロベルタ(左)は当時、警察に被害を報告したか聖職者を支持する町のコミュニティで孤立した。虐待が起きた教会には「イエスに出会う」と書かれたポスターが(下)



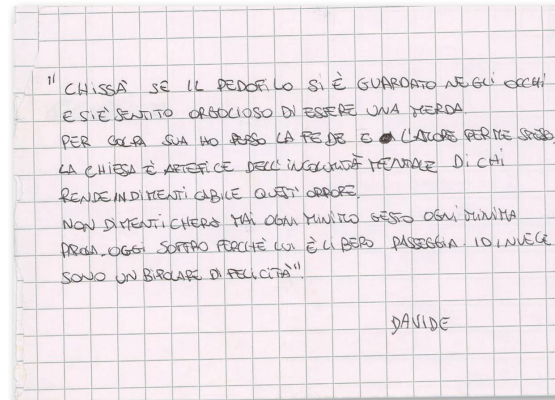
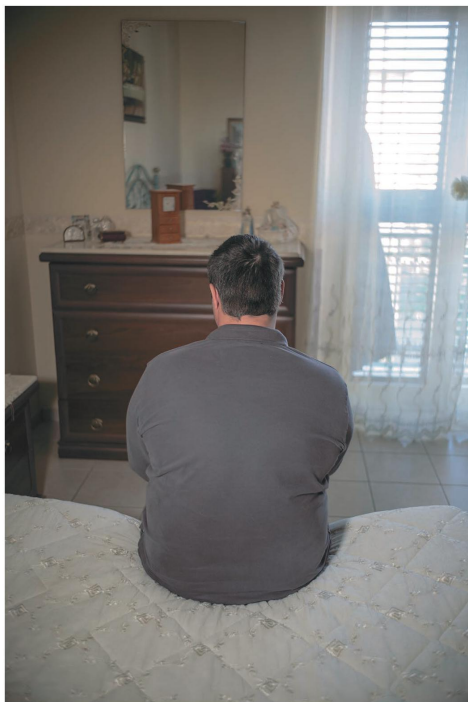
被害を受けたミルコが思いをつづった手紙

性的虐待を受けるまでは幸せで、よく笑う子供だった。家族を愛し、世界で起きることに関心があった。あの事件の被害者となって、神経質で酒浸りの虚無的な考えを持つ大人になった。

30歳前後になって少年時代に何が起きたのかを理解して以降は、家族との関係を正常に戻す必要があった。かつて持っていた知識欲や人への信頼、人生に対する尊敬を取り戻さなければならなかった。そうした努力をしても、自分の心から拭えない記憶や感情はある。どんな瞬間にも頭をよぎり、自分に起きるとんな出来事も複雑にさせてしまう。

そして、未来への希望を失わせる。性的虐待は心を汚染する。幸せをつかむことを不可能にするほどに。

Picture Power



性的虐待を受けたことで人生が狂ったと語るダビデ(下)が住んでいたカラブリア州カタンザーロの街並み(左下)。被害者の多くは貧しい地域や村の出身で、社会的地位が低い

ダビデが思いをつづった手紙

ロリコン神父が、自分がどれだけクズ野郎か考えたことがあるのか知らないけど、私は彼のせいで自分への信頼と愛を失った。忘れ難い恐怖を心に植え付けた教会には責任がある。

(虐待を受けたときに)聖職者が語った言葉と手つきは忘れられない。いまだに心の痛みが消えないのは、彼が自由に街を歩き回っているからだ。ちなみに、私は躁鬱病を患っている。



少年だったディエゴ(左下)は13歳頃からアパート(右上)で神父から数年間にわたりの性的虐待を受けた。現在は抗鬱薬を服用し、処方箋(右下)には大量の薬が並ぶが、毎日服用しても心の傷が癒えることはない。左上は現在のディエゴ

